

妊婦健康診査・検査ですること

①尿検査 尿にタンパクや糖が出ていないか調べます。

★尿たんぱく検査

1回だけ尿たんぱくが「陽性」と出ても、病気とは限りません。妊娠中は、腎臓への負担が多くなり、一時的に尿たんぱくが「陽性」となることがあります。特に妊娠後期に多くなります。しかし、体に必要なたんぱくが尿の中に出してしまうのは、腎臓が機能低下しているサインでもあります。一時的に腎臓の機能が低下していることもありますが、腎臓病や妊娠高血圧症候群の症状である場合もありますので、詳しく検査をさせて頂く場合もあります。

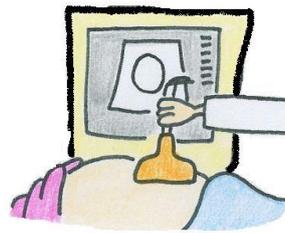
★尿糖検査

血液中に糖が多いと、尿の中に排出されます。尿の中に糖が出ると、糖尿病が疑われます。妊娠中は、腎臓の機能が低下するため、尿糖が「陽性」となることがあります。血糖値が正常であれば、妊娠中の生理的な変化であるため、心配ありません。尿検査前に甘い物をたくさん食べると、尿糖が「陽性」となることがあるので注意しましょう。糖(ブドウ糖)はご飯やパン、麺類などの炭水化物、または甘い食品に含まれています。血糖値を調べて、糖尿病がないかどうか調べることもあります。

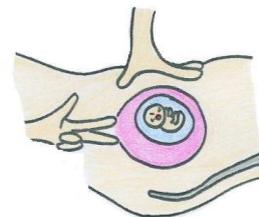
②血圧測定 最高血圧が140mmHg、最低血圧が90mmHg以上が高血圧です。

③体重測定 1週間に500g以上体重増加すると要注意です。

④超音波検査 膣やおなかから検査します。



⑤内診 初期では子宮の大きさや胎児の位置を、中期から後期にかけては胎児の下降の程度、子宮頸部のやわらかさ、子宮口の開き具合を診ます。



⑥採血1回目
〔予定日決定後〕

・全血算(赤血球数、血色素など)

血液中の赤血球、血色素(ヘモグロビン)、白血球、血小板の数や濃度、貧血や白血病、血小板減少症などの病気の有無を調べます。

・血液型(ABO式、Rh式)



・不規則抗体(間接クームス)

緊急時の輸血や血液不適合への対処のため調べます。

血液型不適合妊娠とはRh(-)の血液型のママがRh(+)の胎児を妊娠した場合に問題となるものです。何らかの原因により胎児血が母体側に紛れ込んでしまうと、赤ちゃんが貧血や黄疸を起こしたり、重症になると胎児死亡に陥ります。初めての妊娠では、赤ちゃんへの影響はほとんどありませんが、抗体を作らないようにグロブリンを投与して予防することができます。その抗体をママが持っているのか、調べる検査が不規則抗体検査です。

・HCV抗体(C型肝炎ウイルス)

C型肝炎は血液を経由して感染します。分娩時に赤ちゃんに感染する可能性があるため、感染の有無を調べます。

・HBs抗原(B型肝炎ウイルス)

B型肝炎ウイルスの感染を調べます。感染の程度によっては、出産時に赤ちゃんが産道を通る時に感染する可能性があります。そのため、出産後、赤ちゃんにB型肝炎ワクチンと免疫グロブリンを注射します。

・梅毒検査

性感染症のひとつです。胎盤から赤ちゃんに感染しますが、早期発見できれば治療で感染防止が可能です。

・HIV抗体(エイズウイルス)

エイズウイルスの感染を調べます。赤ちゃんに感染する可能性があります。

・風疹抗体

風疹の免疫をもっているか調べます。妊娠初期に感染すると、流産や生まれてくる赤ちゃんが先天性風疹症候群になる可能性が高くなります。風疹抗体価が低いと、感染する可能性があります。妊娠中は感染しないように、家族の方も含め、気をつけましょう。出産後に予防接種を受けることをお勧めします。



・トキソプラズマ抗体

トキソプラズマは猫などに寄生する原虫です。妊娠初期の感染率は低いのですが、生肉の摂取やガーデニングでの猫のフンからの感染も心配です。感染すると赤ちゃんが先天性トキソプラズマ症になる可能性があり、出産後、知能発育の遅れがみられます。妊娠前に感染したことがあっても、心配ありません。

・HTLV-1抗体(ATLVウイルス)

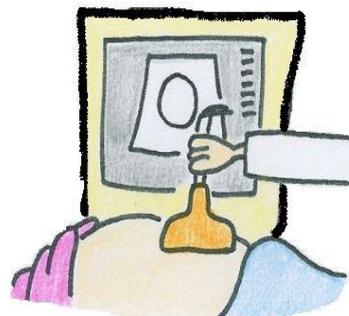
ATLVウイルス(成人T細胞白血病ウイルス)の感染の有無を調べます。陽性の場合、授乳で赤ちゃんに感染して、大人になると白血病を発症し、そのまた子供に感染する可能性があります。

・随時血糖値

糖尿病合併妊娠では、赤ちゃんに異常が起こる可能性が高くなります。

・超音波スクリーニング

妊娠中期(18週~20週)と妊娠後期(28週~30週)に検査室で赤ちゃんの発育、形態異常、羊水量、胎盤・臍帯の異常の有無を調べます。



・全血算(赤血球数、血色素など)

・肝機能検査(AST、ALT)

・腎機能検査(BUN、CRTN)

妊娠中に肝機能や腎機能が悪化することは稀ですが、妊娠高血圧症候群では、肝機能と腎機能が悪化することがあります。

⑩50gGCT
〔24～28週〕

・**グルコースチャレンジテスト(50gGCT)**

ブドウ糖液を飲んで血糖を測定し、スクリーニング陽性であれば75gOGTT(ブドウ糖負荷試験)を行います。

⑪採血3回目
〔29～30週〕

・**全血算(赤血球数、血色素など)**

・**血糖検査**



⑫GBS検査
〔33～37週〕

・**GBS(B群溶血性連鎖球菌)検査**

GBSとは、B群溶血性連鎖球菌のことです。おりものの培養検査をすることによって、GBSを保有しているのかわかります。GBSに感染していると、赤ちゃんに感染して細菌性髄膜炎や敗血症、肺炎などを起こす恐れがあります。母児感染しやすいので、出産時に治療を行い、感染を予防します。

⑬採血4回目
〔35～36週〕

・**全血算(赤血球数、血色素など)**

・**肝機能検査(AST、ALT)**



⑭胎児心拍数
モニター
〔36週～〕

陣痛の強さと間隔、赤ちゃんの心拍数の変化をみるものです。赤ちゃんの心拍数を確認し、赤ちゃんの元気さや陣痛の様子をグラフに記録します。

出産というのは、最後まで何が起こるかわかりません。

胎児心拍数モニターで、外からはわからない子宮内の様子を医師や助産師が確認し、出産の経過が順調かどうかを判断することができます。



赤ちゃんの心音が
聞こえるわ。